



# 横浜若葉台の団地再生の取組み

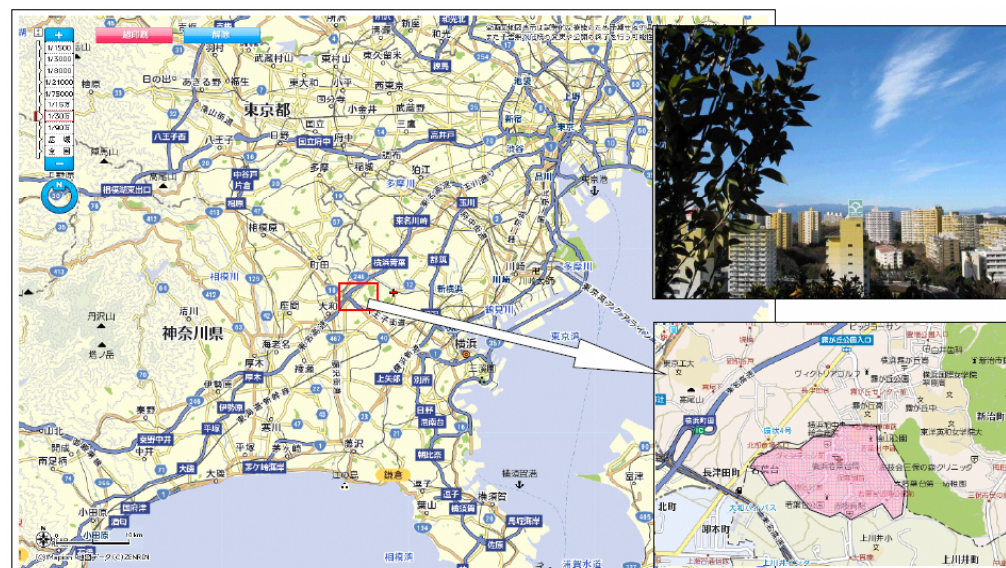


## 1 団地概要 (H30シンポジウム資料抜粋)

### コンソーシアム第1期の活動 (事例紹介)

- 1 団地概要
  - 2 経緯・目的
  - 3 取組み
  - 4 成果
- H29、H30年度  
シンポジウムで事例紹介
- R2年度  
シンポジウムで事例紹介

⇒今回 (R3セミナー) はふりかえりとその後の進捗を紹介



○若葉台の自治会=10自治会+連合自治会



成熟した地域コミュニティとまち全体の行事

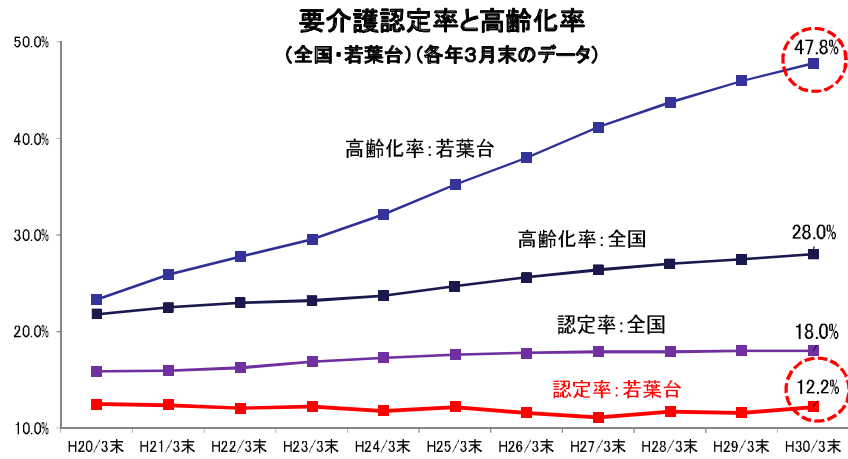


自然豊かな住環境



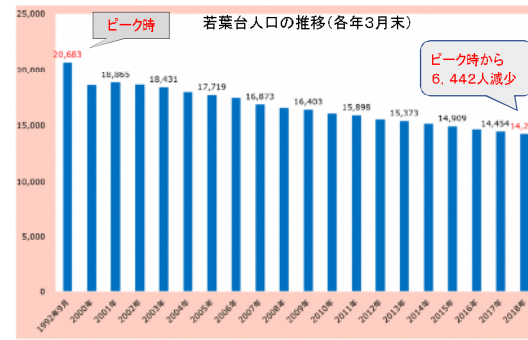
活発なスポーツ・文化活動



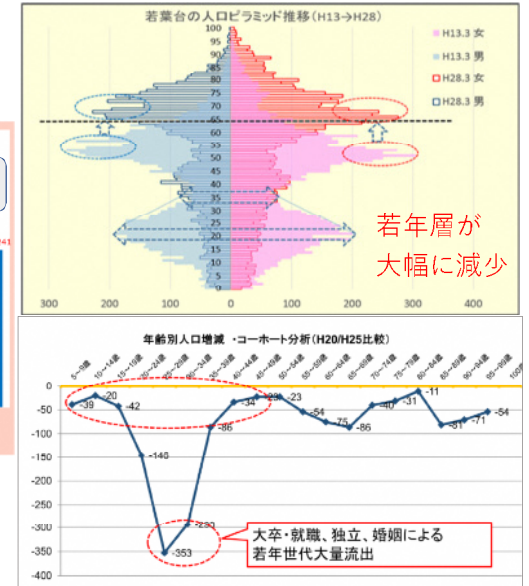


急速な高齢化の進行の一方、極端に低い介護認定率  
 ⇒若葉台の特性との因果関係・相関関係を明らかにすることをねらいとしてH29.5~調査実施

## 人口減少と超高齢化の進行

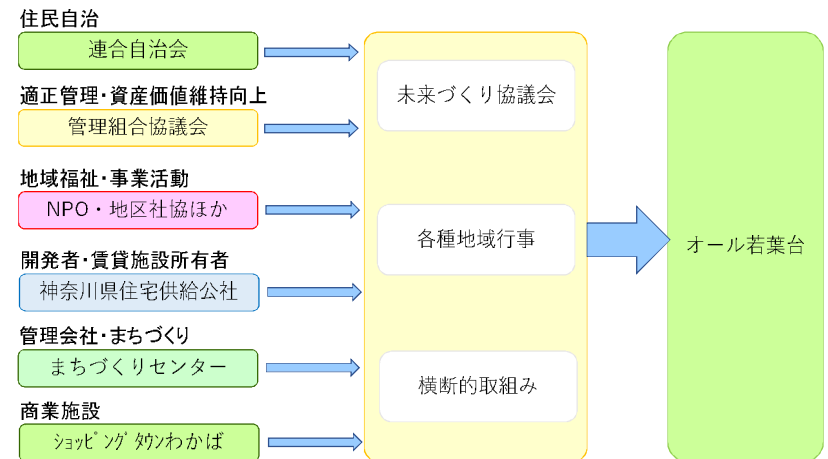


30年後には人口が1/3まで減少する恐れ



## 2 経緯・目的 (H30シンポジウム資料抜粋)

立場・目的が異なる複数団体が連携する素地



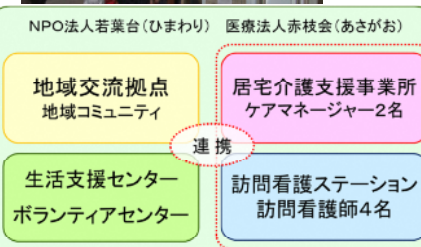
### 3 取組み

## 高齢化に対応する取組み

### ■ コミュニティバス (2011年運行開始、まちづくりセンター事業)



### ■ 地域交流拠点ひまわり (2016年開設、NPO事業)

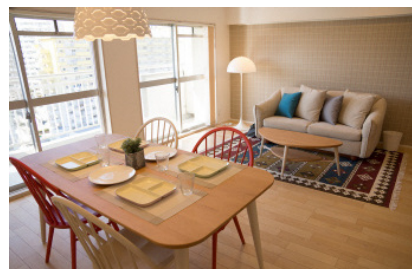


## 公社施設を活用した新たな魅力づくり

### ■ コミュニティ・オフィス&ダイニング春 (2014年オープン、2019年から住民が運営参加)



### ■ 体験入居室 (2015年整備)



## 子育て親子のサポートの取組み

### ■ 親と子のひろば「そらまめ」 (2014年開設、整備:公社、運営:NPO)



### ■ 子育て応援ウェブマガジン「若葉だい家族」 (オフィス春を拠点に、若葉台の子育てママ達で2017年開始)



R2年度シンポジウムでの団体紹介挨拶

取組みの加速と大きな取組み実現にむけて

「まちづくりの指針」の共有

II

世代をつなぎ

未来をひらく

持続循環型まちづくり



## 4 成果（その後の進捗）

まち全体の価値を維持し「選ばれるまち」でありつづけるために

目標実現に向けた基本方針と土地利用イメージ

1 中心街をエンジンとしてまちの活性化と再編を推進

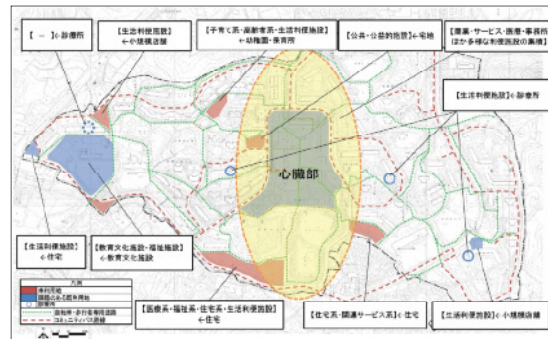
2 多様な主体による「地域包括子育て」

3 包括的な安全・安心・健康まちづくり

4 住環境と公共空間のリノベーション

5 若葉台ブランド・ライフスタイル

6 総合的なエリアマネジメントを展開



## 子育て世代がまちづくりに参画

### ■ 子どもの居場所の拡大にむけた問題提起

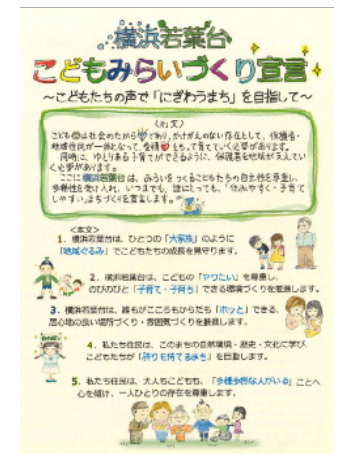


オフィス春での「若葉台で外遊び。。。してる？」講演会



ピロティの使い方を考えよう

### ■ こどもみらいづくり宣言



### ■ 住棟1Fが子供の声でにぎわう交流イベント試行



# ライフステージにあわせた住まいの選択肢

## ■ 高齢者向け公社賃貸住宅

## ■ 子育て世帯向け分譲住宅リノベーション

# 【多様な連携2】 若い世代による魅力発信

## ■ 横浜市・神奈川大学連携 (2018年~2020年)

### 「地域の魅力の発見・発信」

神奈川大学・横浜市・住民による「たからもの探しワークショップ」

## ■ ママライター養成講座

(2017~2019年) ⇒ 「若葉だい家族」



## ■ 絵本づくり (2020年)

# 【多様な連携1】 未来に向けた体験や発信

## ■ 先進的な実証実験やプロジェクト

(横浜市・神奈川県・企業との連携)




## ■ 映画・ドラマのロケ地 (フィルムコミッション)



「ドントンタウン」(井上康平監督、MOOSIC LAB2019準グランプリ)

## ■ 世界への発信

(慶応大学生涯学習プログラム、WHOほか)

# 地域に必要な新たな機能の誘致

## ■ 都市計画変更

地域に近い将来必要となる機能(福祉・医療・子育て支援・店舗など)が立地できるように、都市計画で定められた建物用途の緩和に向けて、議論を重ねてきました。2018年には地域説明会を開催して横浜市へ働きかけ、2020年7月、都市計画が変更(告示)されました。



「今後の土地利用の考え方」地域説明会(2018年8月)

